

2024 年度事業報告

法人の名称 特定非営利活動法人農と福祉の未来・ハコベ

1 事業活動報告

○事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

①農体験、緑地保全、環境教育などを通じた生涯学習事業

・内 容 自然農講座、近隣保育園、学校等との協同による学習体験、自然農人を
目指す研修制度

耕さない、草や虫を敵にしない、持ち出さない持ち込まない、を理とした自然農の魅力や楽しさ、意義を伝え、土の上の作法と所作を身に着け、自らも実践できる力を養い、自己の力能(生きていく力)の増大を目指す。段ボールコンポストの方法などを紹介し、家庭でもごみの減量化と資源化が実践でき、循環型社会の有り様を展望できる仲間を増やす。今年度は新たに、ハコベ独自の研修制度を検討・試行する。自然農による本格的な農業者を目指したい方の為に、四季を通じたあらゆる自然農の所作を共に学ぶ。最低でも年間 150 日以上畑に立てる方を募集する。

・日 時 毎月 1 回 第一日曜日、他

・場 所 青葉区の菜園、田んぼ

・従事者人員 100人

・受益対象者 市民 200人

・支出額 119,640 円

(総括)

7 回の開催(例年の 8 月、1 月は休み。その他は雨の為中止)。四季に沿って行う農の営みを紹

介することができた。講座では、自然農を学びたい方はもちろん、菜園に来て皆さんと交流し、時々で採れた野菜を調理してのランチを楽しみに来園される方々、ご家族もいた。2023年5月より鉄菜園の隣に民設の市民菜園が開園し、地主とハコベが交渉し、これまで自然農講座に通っていた個人やご家族が区画を格安で借りて実践することができている。今年度は、全ての区画がハコベ関係者で埋まり、自然農を楽しむ方、区画をまとめて借り自閉症の子供を持つ家族会と果樹園作りに精を出す会員など、青葉区鉄は、自然農による生産と学びを一体となっていくことができる一大自然農拠点となっている。

②地産地消を推進する事業

・内 容 自然農マルシェ

有志宅の軒先をお借りし、新鮮な自然農野菜を配り、お茶や野菜を使った料理、お菓子等で来訪者を歓待し交流する。近隣の方々の近況を伺ったり来訪者のご様子を伺ったり、又通りすがりの方にも声をかけお野菜を通じた繋がりを作っていく。従来実践してきた「ギフトエコノミー」を推進する。

・日 時 毎月第4日曜日

・場 所 市内

・従事者人員 50人

・受益対象者 市民 360人

・支出額 41,370 円

(総括)今年度は、「交流」をしっかり意識した形で偶数月の第4日曜日開催と位置付けたが、蓋を開けてみれば開催日がことごとく雨にたたられ、10月と12月の2回しかマルシェを開けなかった。しかしながら、新年度ではあるが2025年4月は開催でき、すっかりなじんだ顔ぶれと再

会を喜び合うことができた。また近隣住民の方々も関心を寄せていただき盛況に行うことができています。お料理が得意な方が自然農の野菜を使った料理をボランティアで作ってくれて参加者や道行く人に振舞うことができ、とても楽しい時間となった。

③農産物の生産と販売 事業

- ・ 内 容 法人ご寄付者への返礼、(半)無人販売所の設置、野菜のセット販売、飲食店などへの販売

今年度からハコベは営農にトライし、収入を得て雇用を創出できる団体を目指す。収入の柱は2本立てである。一つは、ハコベの活動に賛同し協力していただける方々からのご寄付であり、もう一つは生産量を上げることによって農産物収益を上げていくことである。

- ・ 日 時 青葉区、瀬谷区、中区等
- ・ 場 所 市内
- ・ 従事者人員 36人
- ・ 受益対象者 市民 200人以上
- ・ 支出額 0円

(総括) 野菜の生産は、本当に厳しい年であったが、野菜たちが頑張ってくれた。夏野菜のハコベのブランドであるピーマンや冬の里芋が豊作で食べてくれた方々からの反応はすこぶる良かった。年度初めよりハコベに期待を寄せ支援して下さった一口ご寄付者への返礼もできる限り定期的に送れるよう努め、旬の野菜を始め、手作り味噌やお米も送ることができた。「ハコベの野菜にはエネルギーを感じる。」「季節のお便りのお手紙を夫婦で楽しみに読んでいる」等、お返事をいただくことも多かった。とても味わい深い交流が定着している。

今年度は無人、半無人店頭販売の収益は約40万円になり(矢野個人の手売り行商も含む)、自

然農講座並びにマルシェの寄付収入を合わせると約 60 万円弱程になった。（一口ご寄付を除く）
今期月商 10 万円を目指していたが目標には届かなかった。これは、当初青葉区の畑前で直売所
を出し、販売展開していくつもりであったが、先輩農家さんからも教を請うたりしているうち
に時間が経過してしまったのが主な原因である。しかしながら、中区と瀬谷の週一販売（瀬谷は
週 2）での数字としては、本当に協力者の大活躍があり健闘したのではないだろうか。 売り上げ
は少ないが着実にファンが増えている手ごたえがある。既存の市場を通さず、独自の販売 戦略を
支援者と共に行うことには意義がある。市場は、ものに対して代替不能な個別的物語や生産に伴
う社会的意義への付加価値 付けを排除し、純粋に交換可能な「商品」に仕立て上げる。私たちは
この市場の運動に一定批判的認識を持っている。 新年度は、この無人販売所を 必ず拡大する。

④障がいを持つ人と持たない人との交流を通じた啓発 事業

・内 容 農カフェ・コミュニティ菜園

有志宅の軒先をお借りしたり、自然農菜園にてテントを張ったりして、
農カフェを開催する。障がいを持つ人も持たない人も等しく活動し、
野菜料理、お菓子等で来訪者を歓待し交流する。近隣の方々の近況を
伺ったりや来訪者のご様子を伺ったり、又通りすがりの方にも声をか
けお野菜を通じた繋がりを作っていく。

・日 時 不定期（月に 1 回程度）

・場 所 市内

・従事者人員 36 人

・受益対象者 市民 240 人

・支出額 0 円

（総括）法人化して以降 2 年目の総括を迎えたが、 上記「カフェ」未だに実行できていない。し
かし、今季からハコベの会員の方が鉄の市民菜園に「ゆるゆる農園」を開き、果樹や野菜を植え、

青葉区の自閉症の子供を持つご家族会と月1回の交流会を畑で行うことが実現した。今まで子供連れで自由に遊ばせることができる場所がなかっただけに、煩雑な手続きや責任回避的なルールもないこのような場所（サードプレイス）の実現はとても意義がある。今後ともますますの発展を願い応援していく。

⑤障がいを持った方及びそのご家族への相談支援事業

・内 容 個別相談支援

これまで25年間行ってきた精神保健福祉ボランティアの実績や精神保健福祉士、看護師、介護福祉士等のマンパワーを活用して、誰もが生きがいや使命を担い、平和に生きる権利を行使できるよう支援する。

・日 時 随時

・場 所 市内

・従事者人員 5人

・受益対象者 市民 120人

・支出額 0円

（総括）今季は、相談の形式としては専門的に伺うということではなく、それぞれのハコベの活動中でお話をうかがうような展開となった。ハコベの特徴としては、純粋な相談窓口というよりは、活動を活かした相談支援となるので、専門的な相談や支援が必要だと思えた方については、そちらをご案内や紹介をした。また逆のコースもあり、比較的敷居の低く自由なハコベを見立ててくださり、相談機関から照会され、結果として菜園活動が心身の回復や癒しとなっている方々が増えてきた。ハコベは、障害福祉制度上に位置付けられた機関ではない。その対等性や自由性を活かした活動を今後も行っていきたい。

